



## 都市競争と東京

5月25日上海の環球金融中心で、「上海・東京グローバルコンファレンス」(森ビル、日経センターなど主催)が開かれた。3年プロジェクトの最終回にあたる。

グローバルな経済競争が激化しているが、気がつけばそれは「都市間競争」の様相を呈している。我々の経済活動は、明らかに知識集約的なものに移行しつつある。知識集約産業は、圧倒的に都市型立地なのである。クリエイティブな活動を営む人々にとって、どこに住むことが最も幸せで、自己実現に叶うのか…。こうしたことを実現できる都市が、競争力を高める。

そもそも1800年頃、世界の中で都市に住む人口はわずか3%であり、1900年でも14%に過ぎなかった。それが今日では50%を超える。そして先進国では4分の3が都市に住んでいる。

都市としてみるかぎり、東京の国内総生産(GDP)は今もニューヨークを凌ぎ世界一である。東京を強くすることなしに、日本経済を強くすることはできない。しかし日本では、地域格差の問題にあまりに目を奪われ、東京を強くするという努力は十分にとられてこなかった。少なくとも政策面では、そういう視点が希薄だった。しかしいま、以下の2点で、東京を強くする努力が求められる。

第一は、都心機能の強化だ。高さが100メートルを超えるビル数は、いまや東京より上海の方が多。劇場やホールは東京の方が多いが、競技場は上海の方が勝っている。インターナショナル・スクー

ルの数も、東京は上海より劣る。こうした中核的機能を担えるような都市開発は、東京にとって必要不可欠である。「コンクリートから人へ」というフレーズで、安易に都心再開発が否定されてはならない。

第二は、より広域の“メガ地域”全体の発展構想を持つことだ。メガ地域とは、トロント大学のフロリダ教授が提唱した概念である。教授は、衛星写真の灯りの量から経済活動、GDPを割り出し、世界の経済が20~30程度のメガ地域で運営されていることを見出した。これらの地域は、世界の人口の5分の1を占めるに過ぎないが、経済活動の3分の2、イノベーションの8割を生みだしているという。そして、世界最大のメガ地域は広域東京圏であり、推計されたGDPはドイツのそれ匹敵するという。

しかしこの地域には、十分に総合的な戦略があるわけではない。例えば、羽田の拡張・国際化に千葉が反対して実現しないことなど、むしろメガ地域内で足の引っ張り合いが行われていることが示されている。

東京の都心拡充とメガ地域の戦略強化…都市時代の重要な課題である。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com